

1. 開設中、運営時の不具合や避難者からの要望等について

- 役所職員がテキパキと動いているのがたのもしかった。
- 区に集約されている情報を避難者へ知らせてもよかったのではないか。
- 情報不足感、手もちぶさたな感じがした。
- ラジオだけでなく工夫が必要。
- 今回食糧飲料は自前でOKだと思うが飲み水程度の提供はしても良かったのではないか（備蓄水）。
- 備蓄倉庫の納品整理は再考の必要あり。ロッカー前に荷物が積み上げられていたり学校側の認識の問題だが肥料や洗剤と食料、毛布が一緒というのはいかがなものか、悪臭がする。
- 避難所が開設されたという情報がほしい。（独居の高齢者）
- この日の情報はお友だちが教えてくれたとの事。
- 区役所から正面玄関から入ると聞いていたが、小学校は西門から入った。
- 小学校体育館扉が前回の台風でこわれていてダンボールがはってあった。強い台風で大丈夫か心配。
- テレビの必要、要望有り。
- 台風の勢力が強くなく被害も無かったので特に問題は無かった。
- 避難場所が当日の場所がちがっていました。
- 飲み物（お茶水）がなかった。
- 給食室の工事の為、講堂が使用できず本塔の4Fの多目的にて避難所開設一家族3人の方が避難してこられました。
- 避難所への誘導案内図が、少し小さいようで、また外にあるものは雨に濡れて破れてしまう。
- 本部（役所）からの連絡があったのかどうか。逐次の現状の連絡が、避難者になされていたのか。
- 地域の避難所の周知徹底が不可欠。（例、青パトで廻り地域へ情報を流す）
- 一時避難時の最低限の準備品の情報。
- 避難所での健康管理の為「マット・ゴザ・段ボール」などの敷物が必要。
- 現状の台風情報の共有化。
- 避難所開設を地域で実施することは想定外で、お世話をした防災リーダー中心に連合役員、避難者の方にも初めての事で、少々戸惑ったが行政の方々と打合せをし、何とか切り抜け避難所開設の必要性を感じた一日でした。
- 11名の非難者と体育館のマットを敷いて、卓球台を間仕切りにしたりと創意工夫をした。
- 避難者の方々からは、場所だけの提供でしたが22時頃台風が大阪を通り抜けた時点で帰宅される際、口々に感謝のお言葉をいただきました。

- 開設に当たっては、諸問題があり各地活との連携で今後実施する必要がある。
- ① 開設に当たっては、事前準備が必要となる。(以下のような問題)
 - A. トイレの和式は、殆どの高齢者が使用できない。
 - B. 屋外トイレのため、風速が強い場合は、使用できない。
 - C. テレビや懐中電灯など必要品の準備も間に合わなかった。
- ② 地震等での開設と違い、台風の場合は避難者も限定的となるため本来は福祉会館などの安全性を確認して使用することを優先すべきである、こうした施設は常時居住できる状態で、しかもテレビや非常器具なども常備こうした状況を確認して、対応できない状況となったら小学校などの開設を各地域自ら行い必需品などを整え居住空間に近づける。

2. あれば良かった、と思われる物品等について

- テレビ、ラジオ等必要。時間をもて余すのはけっこう辛かった。
- PRのチラシや水害風害について講演会をしても良い。地震のときはそんな余裕はないが台風の時是可以はいろいろあると思った。
- テレビなどがあれば情報を得やすかったのかなあと思います。
- お身体の不自由な方の事も考えての準備が必要なのかなあと思います。
- テレビなどの情報機器。
- もう少しくつろげる雰囲気。
- 入口の掲示小さすぎた。
- タタミが有り足が伸ばせ、横になれば良かったと思います。
- 気象状況を目で見て把握できるテレビは必須。
- 状況を知りえる媒体があるとよい。(TV等)
- 停電に備えての用具。(蓄電式ブースター)
- 給水、食事、停電時の充電機材、冷暖の用意など一考を要する。
- 簡易ラジオは用意したが、台風の状況を得る小さいテレビ等が欲しい。
- 敷物類「マット・ゴザ・段ボール・毛布」。
- 最低限「水・お茶」の支給。
- テレビ・懐中電灯・ダンボール・暖かいお茶・スマホの充電器等。

3. その他

- 小学校の体育館、8月初の市議員補欠選挙では1日中35℃台でした。
- 真夏時の避難所としては良くないと思います。真冬も同様です。
- 台風、地震、水害の住民向け避難マニュアル。具体的なものがあれば。
- 今回小・中・会館の3ヶ所を地域防災リーダー、町会長でつめたが連絡方法としてトランシーバーはとても有効だった。今年限りとのことだが整備をすすめてほしい。
- 宣伝カーによるアナウンスすべき。

- 東大阪のアナウンスに負けない設備運用が必要。アナウンスに大阪市の発令であることをいれる。
- 東大阪のアナウンスは誰が避難せよといっているのか聞きとれず不安をかきたてたと思う。
- 大阪市内ではなかなか避難所が開設される事が少ないので、避難所のお手伝いのできた事は貴重な経験をさせていただけたと思っています。
- 車いすの方であるとか独居の高齢者の方が避難されて来るので、そのためにはどのような物が必要なのか、またどのような心構えが必要なのかと考えることができたのは有意義であった。
- 必要な手助けとして声かけが大切であると感じられた。
- この経験を日頃の活動にもいかしていきたいと思っています。
- 最初にも書きましたが、避難所開設訓練の重要性を各自認識したこともよい体験でしたが、スタッフも自分の家の事、町会の事もあり、最後の片付けは4人でやり、体力的にもきつかった。
- ただ、今回は被害が少なく助かりました。
- スタッフも最盛時は20名も集まり、頼もしい団結力でした。
- 行政の方々も、スタッフもお疲れ様でした。
- 今回は台風の接近に伴い発令された避難所開設であったが、地域の状況を見逃した指示であった。
- 地域では、前回の21号の時、そして今回の24号時も早朝から広報車で各戸注意喚起と、避難準備を呼びかけた。
- これは、風雨に備えた対応で、事前準備として100人分の毛布や布団、そして発電機や非常食も用意した。
- 結果的に避難施設の福社会館には、男性2名、女性7名で9名が避難した。
- 私どもは、地域活動協議会としてこのような状況を想定し訓練をしてきた為、市・区が直接しかも唐突に避難所を小・中校で開設する事に違和感があった。
しかも、小学校の講堂は、耐震補強もなく建て替え時期も近く決して安全とは言えず、様式のトイレも無く、障害者や高齢者にも対応できない。
- 台風に対応した避難を考慮すれば、区への対応としても、各地活との話し合いでの開設で十分対応できたと思う。
- 地域の実情を地域自らが把握して、地域福社会館から小学校などのより大きな避難所を段階的に実施する事で、避難民に即した用具や衛生品、テレビや生活必需品などを取りそろえる事ができる。
要は、余り行政として関与しない事こそ非常時に必要と考える。